

## 会議録

会議の名称	令和7年度第3回茨木市こども育成支援会議
開催日時	令和8年1月22日(木) 午後6時30分～午後8時33分
開催場所	茨木市男女共生センターローズWAM 5階 501・502
出席委員	明瀬委員、今北委員、奥西委員、尾崎委員、久保田委員 桑本委員、坂尻委員、下田平委員、高瀬委員、高橋委員、樽井委員、西川委員 畑瀬委員、福井委員、福田委員、本田委員、三角委員、山田委員 (五十音順)
欠席委員	森崎委員 (五十音順)
事務局	山寄こども政策部長、 片山こども政策課長、藤井子育て支援課長、中島発達支援課長、 中路保育幼稚園総務課長、森保育幼稚園事業課長、藪内学童保育課長、 吉田こども政策課長代理、西川保育幼稚園総務課長代理 こども政策課職員 ワークショップ参加職員
案件	○会議案件 (1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の確認 (2) こどもまんなか社会に向けた取組について(ワークショップ) ○その他
配付資料	資料1 特定教育・保育施設、特定地域型保育事業の利用定員確認 資料2 春日丘高等学校アンケートとりまとめ 資料3 春日丘高等学校アンケート原文 資料4 グループ分け メンバー表 資料5 こどもまんなか社会について 資料6 第2回茨木市こども育成支援会議でいただいた質問・回答

発 言 者	発 言 内 容
<p>こども政策課 長 片山</p>	<p>それでは、ご案内のお時間となりましたので、令和7年度第3回茨木市こども育成支援会議を開催いたします。</p> <p>まず、本日の委員の出欠状況について、報告いたします。</p> <p>訃報とはなりますが、放課後子ども教室関係者、川西一一委員ですが、1月20日にご逝去されました。このたびは川西様のご逝去に接し、心よりお悔やみ申し上げます。また、公募市民として参画していただいております森崎萌委員につきましては、欠席のご連絡をいただいております。つきまして、本日20人の委員のうち、18人に出席をいただいております。</p> <p>また、神戸総合速記株式会社が会議録作成のため、この会議に同席しております。</p> <p>なお、本日は会議案件にワークショップを予定しており、円滑な会議運営を図るため、冒頭から4つのグループに分けた配席にしております。ご了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、茨木市こども育成支援会議条例第6条第1項の規定により、会議の議事進行を福田会長をお願いいたします。</p>
<p>福田会長</p>	<p>皆さん、こんばんは。大変寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>また先ほどご案内がありましたけども、川西委員がお亡くなりになったということで、これまで委員として本会議にご参加いただき、茨木市への熱い思いを多く発言していただいております。そのお気持ちを引き継ぎながら、本日の会議を進めていければと思います。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の会議でございますが、先ほど案内があったように、半数以上の委員に出席していただいておりますので、こども育成支援会議条例第6条第2項により成立しているというところでございます。</p> <p>なお、審議内容につきましては、これまでどおり発言者のお名前をつけて公表させていただきたいと考えておりますが、この件につきましては、ご異議ございませんでしょうか。</p>
	<p>(「異議なし」の声あり)</p>
<p>福田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、会議録作成の関係上、どなたが発言されるのか分かるように、「〇〇です」と発言者名をおっしゃってから発言をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、事務局から会議資料の確認と、会議案件の1つ目でございます、「特定教育・保育施設、及び特定地域型保育事業の利用定員確認」について説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>こども政策課 長代理 吉田</p>	<p>では、事務局から会議資料の確認をします。まず資料1ですが、事前に送付させていただいているものです。一部差し替えがありましたので、その分を席に配付しております。次に資料2、春日丘高等学校の生徒さんの意見取りまとめ分になります。資料3、同じく、春日丘高等学校の生徒さんの意見の原文になります。この資料1・2・3、ここまでは事前配付をしているものです。もし今日お持ち</p>

	<p>でないという方がございましたら、こちらで用意しておりますので、お申し出下さい。</p> <p>では続きまして、資料4、案件2のワークショップに係るグループ分けの一覧です。これも事前にお渡しはさせてもらっていたのですが、差し替え分になります。資料5、こちらは案件2の初めに事務局から説明をさせてもらう資料になります。</p> <p>最後に資料6、9月30日に実施いたしました、第2回こども育成支援会議でいただいた質問で、当日担当課がおらずに回答できなかった内容になります。この3つの事業につきましては、来年度も継続して実施する事業になります。今回、この9月30日のご質問を基に各課が回答をしておりますが、また来年度も同様の様式で報告が上がってくる予定です。今回の回答をご覧いただきまして、新たな回答やご意見がある場合、来年度でも問題ございませんので、またご質問をいただければと思います。</p> <p>資料の説明は以上です。</p> <p>では、案件1の説明を保育幼稚園総務課課長代理の西川からさせていただきます。</p>
<p>保育幼稚園総務課課長代理 西川</p>	<p>保育幼稚園総務課課長代理、西川と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>まず説明に入らせていただく前に、当会議の子ども子育て支援法上の役割等について簡単に説明させていただきたいと思ひます。資料1の資料のうち、茨木市こども育成支援会議の所掌事務という書類をご覧ください。茨木市こども育成支援会議は、子ども子育て支援法第72条第1項に基づき、茨木市こども育成支援会議条例により設置されている会議となります。当会議の所掌事務としては5つございます。1つ目と2つ目は、市町村が特定教育・保育施設、または特定地域型保育事業の確認を行い、利用定員を定める際に審議を行うこと。3つ目は、市町村が特定乳児等通園支援事業の確認を行い、利用定員を定める際に審議を行うこと。4つ目は、市町村が市町村子ども子育て支援事業計画を定め、または変更しようとする際に審議を行うこと。5つ目は、市町村における子ども子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関し、必要な事項及び当該施策の実施状況を調査審議することです。私からは1つ目から3つ目の役割に関係して、令和7年度から令和8年度中に利用定員を定める、または変更しようとしている特定教育・保育施設、特定地域型保育事業及び特定乳児等通園支援事業の利用定員について説明させていただきますので、また後ほどご意見等がございましたらおっしゃっていただければと思ひます。</p> <p>それでは、A4横の数字が並んでいる、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員確保（確認）という資料をご覧ください。こちらはブロックごとと地域全体の令和7年4月と令和8年4月の利用定員及びその差を1号・2号・3号の認定別に、また、3号認定こども園についてはゼロ歳児と1・2歳児別に表しております。まず中央ブロックでは、ゼロ歳児が8人、1・2歳児が31人の増加で、3号認定は合計39人の増加、3から5歳児が15人の増加となっており、ブロック合計で54人の増加となっております。東ブロックについて</p>

は、1号認定が15人の減少となっております。西ブロックでは3から5歳児が10人の増加となっております。南ブロックでは、ゼロ歳児が6人の増加、1・2歳児が29人の増加で、3号認定は合計35人の増加、2号認定が85人の増加、1号認定が200人の増加となっており、ブロック合計で320人の増加となっております。北ブロックについては、1号認定で908人の増加となっており、ブロック合計で908人の増加となっております。市域全体では、ゼロ歳児14人の増加、1・2歳児60人の増加で、3号認定は合計74人の増加、2号認定が110人の増加、1号認定が1,093人の増加となっており、合計で1,277人の増加となっております。

2ページをご覧ください。2ページ目からは、先ほどの1ページの内訳として施設別の令和7年4月と令和8年4月の定員をブロックごとに表したものとなります。定員に変更があった施設は太枠と、あとちょっと色を変えて囲っております。まず中央ブロックについては、ひだまり保育園の分園であるゆめひだまり保育園、きらりひだまり保育園の定員変更、ひだまり保育園分園のゆめひだまり保育園ANEXの新設、事業所内保育事業、ちとせ学院C o c c o保育園の新設により、2号・3号認定の利用定員が増加するものです。

3ページ目をご覧ください。東ブロックについては、茨木東邦幼稚園の定員変更により、1号認定の利用定員が減少するものです。

4ページ目をご覧ください。西ブロックについては、春日幼稚園が幼稚園型認定こども園となり、利用定員を変更することから、2号認定の利用定員が増加するものです。

5ページ目をご覧ください。南ブロックについては、認定こども園天王学園の定員変更により、2号認定の利用定員が増加、1号認定の利用定員が減少、また、現在確認を受けていない私学助成対象である茨木みのり幼稚園が特定教育・保育施設の幼稚園型認定こども園に移行することにより、1・2・3号全ての認定の利用定員が増加するものです。

6ページ目をご覧ください。北ブロックについては現在確認を受けていない私学助成対象である安威幼稚園及び郡山敬愛幼稚園が特定教育・保育施設の幼稚園の移行、またさいのもとこども園の定員変更により、1号認定の利用定員が増加するものです。

次に、7ページをご覧ください。乳児等通園支援事業、いわゆる通称こども誰でも通園制度、こちらの乳児等通園支援事業は、令和8年度からの本格実施を目指し、令和7年度より制度化された事業となります。この制度は全ての子どもの育ちを応援し、子どもの良質な成長環境を整備することを目的としております。全ての子ども子育て家庭への支援の拡充のため、月一定時間までの利用可能枠の中で就労要件を問わず、時間単位等で柔軟に利用できる仕組みとなっております。なお、年齢としては生後6か月から2歳、満3歳未満の子どもが事業の対象となります。茨木市では、令和8年度からたんぼぼTriangle学園、てんのう中津保育園及びさいのもとこども園の3施設において、事業の実施を予定しております。利用定員につきましては、支援の対象となる0・1・2歳児の歳児

	<p>ごとの定員を表しております、3施設それぞれ0歳児1人、1歳児2人、2歳児2人の利用定員、合計で15人となっております。また、同7ページの下段のところ、乳児等のための支援給付に係る教育保育等の一体的提供及び当該教育・保育等の推進に関する体制の確保の内容についてですけれども、この乳児等通園支援事業の対象が満3歳未満となっているため、乳児等通園支援事業の利用終了後の受入枠の確保について努めていく必要があることから、ご覧のとおり、記載させていただいております。</p> <p>今後につきましては、待機児童の状況や事業者の事業実施の意向を確認しつつ、乳児等通園支援事業の整備に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>私から以上、説明を終わります。</p>
福田会長	<p>事務局、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の確認について説明していただきましたけれども、ご意見・ご質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
樽井委員	<p>2日前に別の会議で南部ブロックの子育て支援団体連絡会という会議に出席したのですが、そのときに5ページの玉島幼稚園が3月で廃園されるようなことを先生がおっしゃっていたのですが、この表では8年度4月も140と書かれているのですが、これはどういうことかと思って、質問させていただきました。</p>
福田会長	<p>ありがとうございました。事務局、よろしいですかね。</p>
保育幼稚園総務課課長代理 西川	<p>申し訳ございません。削除ができておりませんでした。訂正させていただきます。玉島幼稚園、今年度末、令和8年3月末で廃園となりますので、こちらは利用定員ゼロとなります。</p>
福田会長	<p>ありがとうございます。これは全体も変わってきますか？</p>
保育幼稚園総務課課長代理 西川	<p>全体にも影響してしまいます。申し訳ございません。</p>
福田会長	<p>分かりました。では、南ブロックから玉島幼稚園の分を除いたものが南ブロックの数となり、その分だけ全体の数も減るという理解でよろしいですね。</p>
保育幼稚園総務課課長代理 西川	<p>はい。</p>
福田会長	<p>ご質問をどうもありがとうございました。ここは訂正されるということでございます。ありがとうございます。</p> <p>ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>どうもありがとうございました。これは毎年やることが決まっている確認事業ということになりますので、今後もこの特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の定員数の推移等を見守っていくということでございます。</p> <p>それでは、次に移ってまいりたいと思います。次は会議の案件2つ目でございます。「こどもまんなか社会について」、事務局から説明をお願いします。</p>

<p>こども政策課 課長代理 吉田</p>	<p>では、ワークの説明をさせていただくのですが、その前にワークに入っていた          たく職員の方、席に着いていただいでよろしいですか。</p> <p>では事務局からこどもまんなか社会の取組について、最初に説明をさせていた          だきます。お配りしております資料5をご覧ください。では、こどもまんなか社          会とは何ですかというところですが、こどもまんなか社会というのは、全ての子          どもや若者たちが幸せに暮らせるように、常に子どもや若者、今とこれからにと          って最もよいことは何かを考え、社会全体で支えていくことをいいます。では、          そのこどもまんなか社会を実現するにはどうするのかということにつきましては          は、子どもや若者の皆さん一人一人の意見を聞いて、その声を大切にして、子ど          もや若者の皆さんにとって最もよいことは何かを考えます。こども家庭庁が子ど          も・若者の皆さんの声を聞き、反映し、こどもや若者の視点に立った施策を実現          しますと、こども家庭庁も示しております。</p> <p>では、茨木市はどうか？ということですが、本市が策定しております次世代育          成支援行動計画第5期においても、目指すべきまちの姿の実現に向けて、こども          まんなか社会の実現を大きな項目の1つとして掲げています。茨木市のこれまでの          のこどもまんなかの取組につきましては、第5期計画の策定の際に市民アンケー          トを実施しております。また、こども育成支援会議の委員さんとして、今年度か          ら大学生や高校生の方を対象に公募をいたしました。3点目に、本市が毎月発行          している広報誌の市民アンケートのコーナーを活用いたしまして、今年2月に          本市の子育てに関する質問を掲載させていただきます。最後に、今年度4月から          5月にかけて、春日丘高等学校の1年生の生徒さんを対象に、茨木市のこども施          策についてお話をしに行かせていただいたのですが、その際に理想のこども施策          を生徒さんに考えていただきました。このような取組をしているところですが、          茨木市のこどもまんなかの取組の課題といたしましては、定期的にはまたは継続的          に子どもの意見を聞くという取組については、まだまだ研究段階だと思ってお          ります。5番のシートを見ていただきたいのですが、では、なぜこどもの意見を聞          きたいのかということなのですが、例を出させていただきます。例えば、ユース          プラザ事業について、この事業は生きづらさを抱えるこども・若者の居場所を          運営している事業になります。不登校や引きこもりの方が家から一歩出て、こ          こをサードスペースとして次のステップに進むことができるような支援をユース          プラザ事業ではしているのですが、ただしんどい人は来てくださいねと言ってし          まうと、なかなか来づらくなってしまいうので、基本的には誰でも来ることが          できる安心できる場所ですよという周知を行っております。こういった内容の周知を          学校の先生や地域の支援者さんにもお伝えをいたしまして、市のホームページ、          SNSにも掲載をしているのですが、まだまだユースプラザのことを知らないお          子さんや保護者の方がおられるというのが現状です。市として、これ以上の周知          って何だろうか迷っていたときに、高校生、中学生から「SNSに掲載したと          ころで、そもそもそこにたどり着くことができない。」「そもそも不登校だから学          校の情報はほとんど入ってこなかった。」「友達の口コミがあると行ってみようか          なと思うねんけどな」など、市としてまだまだこれからできることはあるかもし</p>
-------------------------------	--

れないということに気づかされました。このようにこどもの意見を聞いて、新たな気づきがあれば、施策の運用を工夫したり、方向性を見直したり、逆にこのままでいいんだなと背中を押してもらえることがたくさんあると思っております。そこでなのですが、ふだんから子育て支援等に関わっている方で、まさに子育て中の方、また高校生の方や、つい最近まで子どもだったよというこども育成支援会議の委員さんに、このこどもまんなか社会への取組について、イメージをしていただきまして、こどもの思いを聞いて生かせるようになるには、もしくは子どもの忖度なしの意見を聞くには、それを継続的な取組にするには、など、こんな取組はどうかという可能性を本日、ご意見をお伺いできればと思っております。

ここからはグループワークの説明を簡単にさせていただきます。ワークの進行につきましては、福田会長にお願いをしております。また、このグループワークの議事録ですが、グループ内における皆様の発言は議事録には掲載をいたしません。ワークの最後に予定をしております各グループの発表と、それに関する質疑応答は議事録に掲載をいたします。なお、ワーク中に皆さんがどんな話をされているかなというのを後ろにいる各課長や、あと傍聴の方も動いてもらって拝聴させてもらいますので、ご了承ください。

では早速、ワークの概要をお伝えします。まず、春日丘高校の生徒さんに考えていただいた理想のこども施策を見て、思ったこと、感じたことを各グループで共有をしていただければと思います。こちらは質問1として、こどもの意見で面白いな、高校生らしいなと心に響いた施策について、質問2として全体の感想をまず共有していただければと思います。次のお題ですが、こどもの意見を聞くためにはどうしたらいいかということですが、各グループの皆さんの経験や知識、客観的なご意見等を出し合っていて、①、〇〇なことを知りたければ、☆☆な意見の聞き方があるかもしれない。②、△△なことをすれば、継続的に意見を聞けるかもしれないよという、〇と☆と△にどんな言葉が当てはまるのかなというのを皆さんで意見を出し合っていていただければと思います。

次のスライドに例を載せております。例えば1つ目、ユースプラザは安心できる居場所になっているのかなということを知るには、ユースプラザの利用者と保護者、あと地域の支援者にもそれぞれアンケートをしてみるのはどうだろうか。そのアンケートの内容を利用者と一緒に考えて、アンケートの実施結果を利用者に返すという取組をすると継続的に実施ができるかもしれない。この例えは、事業にスポットを当てた1つの例になります。

次、2つ目の例ですが、大人になっても茨木市にずっと住み続けたいなと思ってもらうにはどうしたらいいかということを知るには、おにクルの来場者に「大人には何で茨木市で子育てをしているのかな」、「子どもには茨木市に住んでよかったと思うところは何か」と聞いてみるのはどうだろうか。市内の大学と一緒に実施すると、お互い負担なく継続できるかもしれない。これは事業ではなくて、すごく大きな視点を持った例えになります。どちらでも結構です。抽象的なお題になりますので、皆さんが所属している事業に置き換えて考えてみられてもいい

	<p>かなとは思っております。</p> <p>最後にですが、このワークショップには正解はございません。このこどもまんなか社会の実現に向けて、子どもの意見を聞くにはどうすればいいかな、その効果って何だろうなという視点を皆様と共有できればと思っております。また、本日のワークショップでいただいたご意見につきましては、次世代育成支援行動計画第5期に示されている事業運営の中に取り込めるか今後検討していきたいと考えております。また、このワークショップの実施、皆さんにこうやって考えていただいて、意見を出していただいたという取組につきましては、次の第6期の計画に何らかの形で反映できればと思っております。</p> <p>事務局からは以上です。</p> <p>では福田会長、よろしく願いいたします。</p>
福田会長	<p>皆さん、よろしくお願ひします。実はこの手の審議会でグループワークをするって、いつもあるものでもないのです。このように審議会グループワークを行うのは、比較的珍しい取組の一つだと思います。事務局が本当の意味でこどもまんなか社会というものをどういうふうに茨木市で実現していくかは、いつものような形の審議会をやっているだけではちょっと難しいなという中で、ぜひ皆さんからのアイデア出しをしてもらおうということをやってみましょうかということになっているのですね。恐る恐るスタートみたいなところがあるかと思ひますけれども、ぜひいつもと違う形で皆さん方が自由にたくさん意見を出していただいて、最後に、模造紙が各グループに配付されていると思ひますので、そちらに何か形になるものをまとめてもらうということを考えてもらえたらなというふうに思ひています。ところがグループに分かれていただきましたけれども、そもそも目の前にいる人がどこの誰だか分からないという状況では、自由に発表してくださいよと言われても難しいなと思ひますので、最初に簡単な自己紹介でこんな人なんやなというので、お名前とかを覚えていただきたいと思ひます。簡単にメモを取りながらでもお話を聞いていただけたらと思ひますけれども、まず最初に、皆さんそれぞれの所属やお名前、そしてご自身のことが少し分かる内容を含めて自己紹介をお願いできればと思ひます。</p> <p>それからもう一つは、今回こどもまんなか社会ということですので、子どもの頃の思ひ出、茨木の思ひ出でも結構ですし、ふるさとの思ひ出でもいいですし、そういったことを簡単に語っていただきながら、まず1周していただきたいと思ひます。2周目になりますと今度は、ワークの1つ目です。この春日丘高等学校の1年生の意見を読んでいただいているかなと思ひますけれども、その中で気になる意見や全体の感想などをまずまとめてもらって、一旦そこまで各グループでどんな話があったのかなというのを聞いていきたいなと思ひます。ここからは記録は一言一句というわけではありません。例えば私だったらこういうことです。関西大学の福田ですが、実は私、本当のことですけれども、家族で養育里親をして、4歳の子どもを預かっているのです。なので子ども子育ての話をするとき、いつも割と自分のことと思ひながら考えることができます。こどもの頃の茨木の思ひ出ですけれども、実は私は出身は長崎なのですね。ただし妻が茨木市出身で</p>

	<p>して、まだ結婚する前、妻を車で送っていくのが私の思い出ということになります。1人このぐらいの時間でしようか、各グループで回していただければいいかなと思いますので、まずは4つそれぞれのグループで自己紹介のターンをお願いしたいと思います。よーいスタートです。お願いします。</p>
	<p>(グループワーク 1回目 開始)</p>
	<p>(グループワーク 1回目 終了)</p>
福田会長	<p>そろそろいかがでしょうか。各グループ、今までのところでどんな話があったのか、ちょっと聞いていってみましょう。各グループで誰が発表をするか決められていますか。我こそはという方が言ってくれたらいいかなと思いますけども、大体1グループで1個目は簡単に1人1分もあればいいかなぐらいですので、ゆっくりしゃべってもらえればと思います。では、〇班いきましょうか、お願いします。</p>
坂尻委員	<p>坂尻です。ここのグループでは、まずあなたが考える夢の子ども施策を自由に記入してくださいのところで、一番上がったのは、もっと大きな夢があってもいいんじゃないかなということで、大学無償化とか、自習スペースなどというところで、すごく近い未来というか現実を見ているなということが挙がりました。それに対して、子どもだけの同じ境遇にあるマッチングアプリみたいなものをつくってほしいだったりとか、ロボットというところの欄もあって、こういった子どもたちはどういう立場なのかなと、そういうことを考えさせられるなという話をしていました。20年後、あなたの未来を教えてくださいというところで、これも結構現実味があるなというところで、独身を求めている子が多いのか、逆に子どもを産んで仕事もしたいというところで、すごく明るい未来だなという話とかをしていました。</p>
福田会長	<p>はい、大丈夫ですよ。ありがとうございます。アンケートの対象が春日丘高校というのが一つポイントかもしれないですね。</p> <p>〇班いってみましょうか。お願いします。</p>
高瀬委員	<p>高瀬です。ここのD班で出たものは、20年後のあなたの未来を教えてくださいというところで、全体的に見て、お金にしっかりしているということと、結婚観がすごいというのが出ました。結婚については、本当に皆さん三十五、六歳で結婚して何人子どもがいるとか、すごく現実的、堅実に働いて、結婚して子どもがいるという将来像をきちんと描いているというか、そういう印象を受けたねという話をしました。</p> <p>そして面白いなと思ったのが、夢の子ども施策のほうで、マタニティマークに男の人を入れてくださいというのがあったのが、今どきと思いました。私は森のどんぐり広場という子育て支援広場をしているのですが、そこでもやはりお父さんがお休みのときはお父さんと、いつもはお母さんと来るところがお父さんとお子さんで遊びに来るという親子の姿も垣間見えますし、またそのお父さんが物すごくおしゃべりで、周りのお母さんと「あそこがどうよね。」とか「あそこに行ってみたらどうですか。」みたいな話とかで盛り上がっていたりとかするのを、今どきの感じのお父さんってすてきだわと思いつつ、温かい目で見守っている</p>

	<p>今日この頃ですが、という話もちよっとだけさせていただきました。 以上です。</p>
福田会長	<p>ありがとうございます。夢なのに結構現実的だなという感想だったかもしれません。 ○班お願いします。</p>
奥西委員	<p>奥西といいます。よろしくお願いします。この班で出てきたキーワードとしては、「おにクル」と、あと勉強、遊び場所、あとはほかの班にありましたけど、現実的な考えが多いというような話がありました。おにクルについては、すごく好意的な意見が多いのですが、それはあくまでおにクルに近い人が多いのではないかなという話も出ていました。あとは現実的な考えが多いというようなところと、もっと大きな夢を持ってくれているのに、そのためにはどういったことをして、現実的な考えと、今のピュアな思いをどうやったらそのまま 20 年後に思ってもらえるかというのをどうしたらいいのかなという話をしていました。 以上になります。</p>
福田会長	<p>ありがとうございます。おにクル、ちょうど通ってきた人も多いと思うのですが、多分市の子育てに対する姿勢とか向き合い方みたいなものは、一つ象徴的なものとしてあるのかもしれないなというのは思いますよね。 それでは最後、○班お願いします。</p>
今北委員	<p>今北です。この班では主に勉強とおにクルについてお話がありました。おにクルで勉強をしている人が多いなということですが、実は 1 人で勉強している人が少ないんじゃないかと。おにクルは勉強だけのところじゃないと思うのですが、勉強をするにしても静かにするところじゃないから、3 人とか 4 人とかのグループで行くから、1 人で行く人には向いていないんじゃないかなという話が出ていました。あと、大学とかを無償化してほしいとか、そういう勉強に関するお金の話も多かったのですが、お金がただになったら勉強する重みとかが変わってくるよねとかも話しました。 以上です。</p>
福田会長	<p>ありがとうございました。お金のことについても多く書かれていましたね。夢というよりも、現実をかなりシビアに見ている高校生が多いという印象を受けました。 それでは、1 周回ったところで、次、こちらが本番ですが、ワーク 2 つ目でございます。こどもまんなかの取組について、先ほど事務局から説明があったように、具体的に考えていこうということで、特にこどもの意見を聞く、それをどう生かしていくのかな、そのためには一体何をしたらいいんだろうかということグループでお話ししてもらいたいと思います。まず最初に、メモ程度、もしくはポストイットがあれば、付箋でも結構ですが、まず個人ワークとして 5 分ぐらい、自分だったらどうかなというのを考える時間を取りたいと思いますので、40 分からグループディスカッションに入ります。それまでまず自分だったらどうやるところですね、自分の意見をまとめる時間を 5 分取りたいと思います。よろしくお願いします。</p>

	(グループワーク 2回目 開始)
	(グループワーク 2回目 終了)
福田会長	<p>いかがでしょうか、そろそろ時間となりましたが、各グループでまとまっておられますか。なかなか難しいですね、ビシッとまとめ切るとするのは難しいかもしれない。ここまでの検討状況をほかのグループに向けて報告していただきたいというふうに思います。ここから先のお話は、議事録にも載せていくような形になりますのでどんな話かなというところで、各グループでどなたが報告されるか決められましたか。まとまっているところから進めてもらおうかなと思いますので、最初に発表しようかなというグループがあれば挙手していただければと思います。</p> <p>では、あそこに行きましょう、お願いします。皆さん、拍手をしてください。</p>
本田委員	<p>保育園児保護者代表、本田です。このCグループでは、子どもの意見を聞くには何をしたらいいかなということで、ツールとしては「おにクル」などに掲示板を置くのはどうかということで、今週のテーマとかを書いて、そこに付箋だったり何かを置いていて、何かを貼ってもらう、そこに面白い言葉とか何か答えがあったら、バズったらいいなという意見がありました。また、気軽に話せる相手が最近の若い人に聞くと、AIだったりチャットGPTが多いのかなということで、SNSの利用であったり、事業としては中学校のカフェ事業、放課後子ども教室などで定期的にそういう方と関わってしゃべれるといいのかなということです。</p> <p>あと、大人だったら経験者の話を聞けたりするのはPTAという場所も大事なのかなということで、学生、高校のときの話を20代の若い人から高校のときにどんなことが欲しかったという意見を聞くのもいいのかなということです。</p> <p>面白かったのが、教えてこども先生という感じで、やはりこどもって最新情報を誰よりも一番知っているのかなということで、ここで挙がったのが今はリアルは駄目で、ストーリーを若者は見るらしいです。何か情報を上げるときはストーリーだよという、そういう意見もあったみたいなので、そうやってこどもに何か教えてと聞くのを定期的に、また聞いておしまいじゃなくて、最新情報を常に聞けるように教えて教えてと、子ども先生という感じで聞けたらいいのかなということで、この一番ワードとしては、対話、コミュニケーションがやはり一番ワードに上がってきました。でもこどもの意見を聞くには、大人の話聞くのも大切かなということで、今はすごく共働き社会で、こどもたちとゆっくり食事をしながらしゃべるということも減っている、そんな課題を解決するにはこども食堂があったりもするけど、それをやはり知らない保護者の方も多いから、どうやって情報を知ってもらうか、高齢者の方と関われる環境もつくれたらいいよねという話になりました。</p> <p>以上です。</p>
福田会長	<p>Cグループ、どうもありがとうございました。</p> <p>では次、D班お願いします。</p>
高橋委員	D班です。高橋です。まず意見として出たのは、意見を聞くときに、表明をこ

	<p>どもにしてもらおうと思ったら、それまでの長い形成の期間があるということで、安全・安心で育ってきたかとか、聞いてもらった経験があるかということ、その積み重ねが大事じゃないかなというふうに意見が出ました。例えば、プールの廃止が決定という通知が一方的に上から子どもに下りてくるみたいな経験は象徴的で、大人がルールを決めていくみたいなことがずっと積み重なっている中で、最後に 18 歳ぐらいになって意見を教えてと言われても、こどもはそれで変わると思えないというようなことで、積み重ねが大事じゃないかなという意見が 1 つ出ました。</p> <p>次は、何かを周知するときは、やっている側からそちらの利用してもらう方のほうに向いていくということが必要じゃないかなと思います。SNS の媒体も今はやるものってどんどん変わっていく。意外と地域の催しとかに出て、対面でこちらから出ていくと、意外と知ってもらって、利用したいなという気持ちになってもらえる人もいますので、出向いていって出会うということが大事ななという意見が出ました。</p> <p>あとは、コミュニティの希薄化で、今までだったら地域が吸い上げていた意見というのがなかなか吸い上げにくくなっているよねという意見も出まして、そのコミュニティづくりというのも必要かなというところです。</p> <p>ありがとうございます。</p>
福田会長	<p>D 班、ありがとうございました。</p> <p>では次、3 つ目、どこ行きましょうか。では、こっちでお願いします。皆さん、どうぞ移動してもらって見せてもらいましょうか、皆さん、見えますか。</p>
今北委員	<p>A 班の今北です。こどもの意見を聞くためにはというところで、こどもの本音を知りたいければ、SNS の活用と、グループ討論というのが出ました。SNS の活用については、今の子どもは F a c e b o o k とかを見ないので、主にインスタや T i k T o k を用いて、そういった活動をしたらいんじゃないかという案が出ました。</p> <p>2 つ目のグループ討論についてですが、そういうアンケートを最近パソコンですることが多いのですが、自分の学校だったら部活とか学校から帰る直前の終礼のときにしなさいと言われることが多くて、とても面倒くさくて、選択肢の「まあまあよい」を連打するみたいな、そういう作業になってしまっているの、アンケートの精度を高めるためには、1 時間を使って、個人じゃなくて班単位とか、クラス単位でのちゃんとした意見を出したほうが中身があるんじゃないかなという案も出ました。茨木版チャッピーをつくれれば、継続的に意見を聞けるかもしれないというのは、今チャッピーがとても便利なツールで、チャッピーと呼びます。幅広い知識を持っているチャッピーなのですが、それを茨木に特化させたら、茨木に関すること、分からない例えばごみ出しの日とかを聞いたら、茨木版チャッピーが即座に答えてくれるみたいな、そういうアプリとかがあったらすごく便利だなというのが出ました。</p> <p>以上です。</p>
福田会長	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>それでは最後、〇班お願いします。</p>
<p>坂尻委員</p>	<p>坂尻です。悩むこどもの気持ちを聞くというところで、親子でそういった共有をするほうがいいよねという話はしたのですが、やはり昔ながらの子育てで困った親子とか、そういった保護者の人が多いところで、親のアップデートが必要だよねという話になりました。アップデートというのはなかなか難しいものとなってくるので、その地域の人々、お姉ちゃん・お兄ちゃん、年齢が近いお姉ちゃん・お兄ちゃんの地域の人たちにこども食堂をやっている方々とか、大学生とか学生とかにそういった聞ける、地域の人だったり信頼できる先生だったり学生というネットワークを強めていくことで、こどもの気持ちをもっとくみ取れるようになっていくんじゃないかなという話でした。</p>
<p>福田会長</p>	<p>ありがとうございました。4つのグループからの報告がございました。皆さん、時間が足りなかったですよ。もっと時間があつたらなというところだったろうと思うのですが、一旦ここまでということで、本当に活発にお話を進めてくださる委員の皆さん方を見て、本当にうれしく思いながら回っておりました。</p> <p>残りの時間、簡単に私からコメントをさせてもらって、その後、部長にも感想を述べてもらうというふうな時間を少し取りたいなというふうに思っております。</p> <p>私のほうからは、このこどもまんなかの取組に向けてどういうことが茨木でできるんだろうかということですよ、通例、市役所が考える「どうしようか」といったときって、いい事例を見に行くとか、いい事例を探しに行くとか、そういうのってよくある方法なのですが、なので茨木市がちょっと誇らしいのは、多分今おにクルに視察が殺到していると思います。全国からどないなっているねんと思見に来るところですよ。今度はこどもまんなかの取組をしようと思ったら、見に行ってこんなのがありませというのがパターンなんですけども、実は選んだのはそうではなくて、ボトムアップですよ、皆さん方から意見を聞きながら、それをどう施策に生かしていくのか、もしくはこども育成支援会議の中で何ができるのだろうか、しかもそれは大きく予算を取ってお金をつけて何かをやろうというよりも、まず次期から何かできることはないかな、そういったことを探りたいというプロセスの中で、それはやはりグループでお話をしてもらいながら皆さん方の意見を聞いてみましょうということで、今回こういったグループワークのセッションをしてもらうということになりました。実際に4つのグループに分かれてお話を聞いてみると、確かに、それができたらいいなという意見がたくさん上がってきたなと思いました。やはりキーワードとしては「教えてこども先生」、これはすごくいい響きだなと思ひまして、こどものことはこどもに聞かなくてはいけないということですよ。今やリアルじゃなくてストーリーだと、これはインスタグラムの話ですけども、そもそもFacebookなんかはこどもはやっていないよという話、Facebookのアカウントを持っている私からすると、なるほどと思ひながらお話を聞かせてもらったところありがとうございました。</p> <p>それから意見をどうやって聞いていくかについては、やはりプロセスがありますよねということです。それは本当にそのとおりだなと思ひまして、実は今</p>

回、若い委員に急に入らせていただいていますけども、これはかなり勇気の要ることというか、難しいことで、本当によく務めてくれているなと思いますが、本当にこれは赤ちゃんの頃から一つ一つ、あなたの意見は尊重されるんやでというプロセスを経る中で、こどもとして意見を持つことができるようになりますので、その安心・安全の中でこどもが自分の意見を聞いてもらう、そういったものをどう積み上げていくのか、これはこの会議だけではなくて、茨木市全体で教育場面、保育場面を含めて考えていくことができる考え方が上がってきたのかなというふうに思います。

それから、説明については行ったほうがいいよね、これは私の社会福祉の分野でいうと、アウトリーチというのですね。出向いて行って説明する、サポートをする、もしくは最近だったらプッシュ型の支援とか、そういった言葉もありますけども、そんな難しいことを言うんじゃなくて、いいことは説明に行ったほうが良いという話、実はこども育成支援会議でも茨木市がやっている施策の一覧を見たときに、こんなにたくさんあるのかというのがあるのですね。我々委員の第一印象だと思います。説明に行こうという話でしたよね、こどもの意見を聞こうという話だと思います。

続いては、やはり出てくるSNSをどう活用するのかですよね。T i k T o k やインスタグラムをぜひ市役所でもご活用を考えたほうが良いというのは間違いはないと思うのですよね。もしくは、アンケートを採るというのは、これは本当にこの手の会議ではあるあるですけども、今実際に回答してくれている方がどんな場面でアンケートを採られて、どういうふうに回答しているのか生々しく教えてもらって、あのアンケートだけを信用してはいけない、そのプロセスを我々が見る必要があるなということを勉強させてもらえたなと思いました。

いわゆる「チャットGPT」のようなAIですよね。大学では学生が「チャッピー」と呼んでいたりします。確か「このゴミをどうしたらいいだろう」、「消火器ってどうやって捨てるの」みたいな話ですよね。分かりますか、ちょっと難しくないですか。茨木版のチャットGPTがあれば、多分わざわざ市役所に電話をしなくてもお答えが出てくるような仕組みというのは、今やできる世の中になっていますよねということを考えていくと面白いということでした。

それから最後については、大人のアップデート、やはりこれは大人の側がアップデートしないと、一部で子どもの意見を聞こうと言っているけども、やはりそれについていけない大人がいると、意見は尊重されないんじゃないかというふうになってしまうのではなかろうかということでした。しかもその具体的なプロセスというものは、やはり近所の信頼できるお兄ちゃんやお姉ちゃん、所々に出てきた例えば20代の人から高校生が話を聞くとかというのは、本当に現実的な活動として面白い取組ができるんじゃないかなというふうに思いながら、やはりやってよかったなというのが私の印象というところになりますが、一旦私の話はここまでにさせていただいて、部長の感想もお伺いしたいなと思います。

山寄部長、どうぞよろしく申し上げます。

<p>こども育成部長 山 寄</p>	<p>どうもありがとうございました。今発表いただいた中、話されている中もちらちらと歩いておりました、面白いなというところと、春日丘高校のところでは、もっと大きな夢を書いたらいいのにとか、マタニティマークとか、おにクル、茨木の子育てとなるとやはり高校生もおにクルということも結構知ってくれているのかなと感じました。大学の無償化とか、ただ無償化が全ていいのか、「タダ」だったら軽く、「タダ」やねんからみたいなどころもあるということも委員がおっしゃっていて、そうやなと思いました。あとは次の段階のところ、福田先生がほとんど言っていたので、僕が「あっ」と思ったのは、私の身近にあるアンケートで、この頃研修が動画で、動画が終わったらアンケートをやりなさいと言われます。そんな時は、「まあまあよかった」を連打することもあったのかな。確かにその辺を1人でやっているからできるのであって、これが例えば課長とかも集まりながら意見を言いなさいと言われたら、そんなことは絶対にしないですね。茨木版チャッピーについては、私もアップデートしていかないといけないというふうに思いました。実は今年度最後のこども育成支援会議となりますので、また来年度につきましても、引き続きこども支援施策にご尽力いただきますようお願いしまして、私の感想とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>福田会長</p>	<p>部長、どうもありがとうございました。何か今始まったという感じですけども、実は今年度最後の審議会というところでございます。今日の議論、きっと次に生かされてくるというふうに思います。私がうろろろしながら考えたのは、この私たちの審議会というものをこどもたちに見てもらったときに、大人がこれは本当に自分たちのことを真剣に考えてくれているなと思ってもらえるのかどうか、きっと今日の我々のディスカッションというものは、見てもらうに値するプロセスがあったのではないかと思うのですよね。このことをぜひ次に進めていきたいというふうに思います。ただし先ほど、部長からもお話がありましたように、本日で一旦今年度のこども育成支援会議が終了ということでございます。この審議会というものは、当然これは市長からの諮問に答える形で審議をしているということになりますので、一旦我々はここまでの審議の内容をまとめて答申したいなというふうに思っております。このような形でまとめた内容で答申を行いたいと考えております。</p> <p>こども育成支援会議では、令和7年度第1回の会議で、市から諮問を受け、これまで審議を行ってまいりました。</p> <p>審議の結果、こども子育て・若者支援に係る市民ニーズ等を十分に考慮しながら、第6次茨木市総合計画のまちの将来像にある「子ども・保護者のうれしいを育むまち」、「地域ぐるみで子どもの成長を感じるまち」、「子どもの好きを伸ばせるまち」の実現に向け、計画が着実に推進されていると考えております。それを踏まえた内容で答申を行いたいというふうに思いますが、ご異議ございませんでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p>
<p>福田会長</p>	<p>どうもありがとうございます。</p>

	<p>それでは、本日の会議、ここまでということになります。</p> <p>これをもちまして、令和7年度第3回こども育成支援会議を終了とさせていただきます。長時間にわたり、ご協力いただきまして本当にありがとうございました。ぜひ引き続き、この会議の進行を見守っていただきたいというふうに思います。</p> <p>以上でございます。ありがとうございました。</p>